

(34) 崎浜の電気石

参考文献(1)を手引きに、探査した。文献では「岩手県崎浜のリチア電気石」の項として紹介している。この場所は小生の故郷の直ぐそばである。参考文献と本原稿を対比させて読むのもよい。現地は全く別の様相を示している。時の流れを感じることであろう。国道45号線を越喜来地区で外れて、越喜来湾を左下に見ながら県道を崎浜へと進む。崎浜には北里大学の海洋研究所がある。これも1つの目印となる。これを目指して進んでもよい。地形図中の赤印の所に、鉄電気石を持つペグマタイトの入った花崗岩の岩塊が記念碑として残っている。参考文献(1)の時には、この付近は一体海岸であり、この岩塊は波にもまれていた。が、現在では埋め立てられ、漁港岸壁となっている。この岩塊を除去しないで、記念碑として残置したことに感謝する。



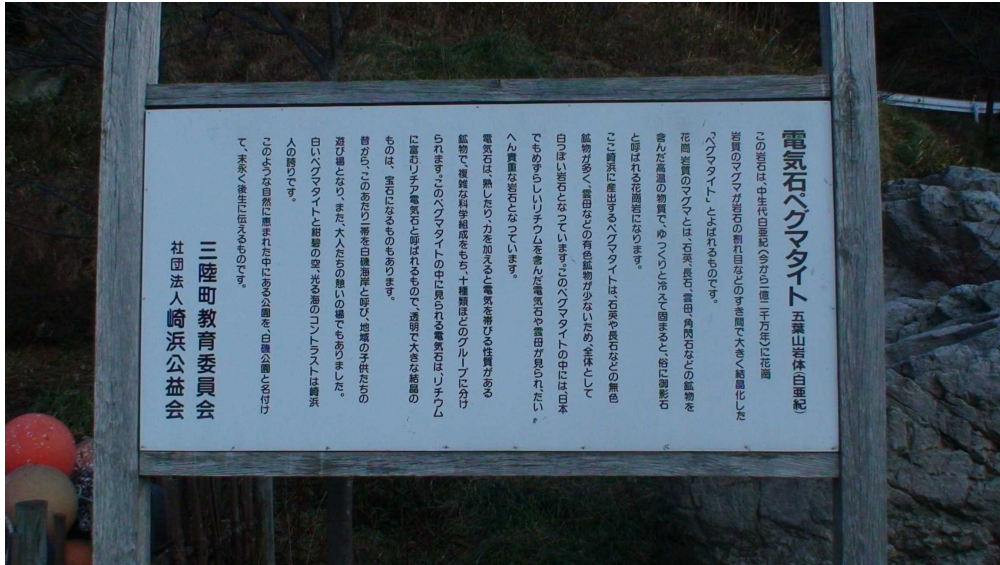
地図 国土地理院 2万5千分の1 地形図「越喜来」

探査日 2009年1月

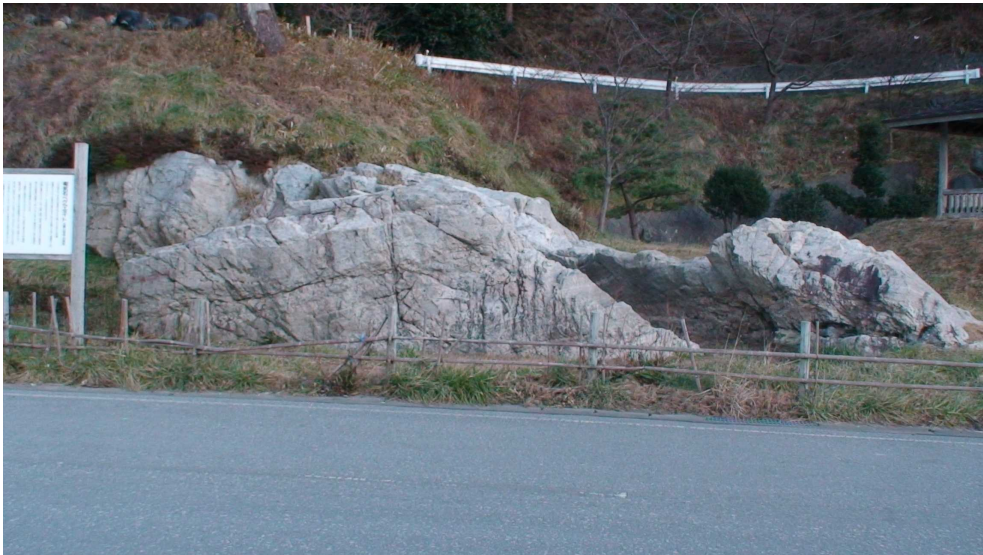
参考文献

(1)「鉱物採集フィールドガイド」、草下英明、草思社、東海大学出版会、1982年。

鉾山跡写真



記念碑として残した花崗岩の前に置かれている揭示板



横たわっているペグマタイトを持つ花崗岩。かつてはこの回りは海であった。



黒斑が黒い鉄電気石である。岩塊の回り一面で見ることができる



結晶長の長い鉄電気石



記念碑の所から崎浜の中心部方向を見る。写真の中心当りの海岸部に防潮堤があり、この防潮堤（地形図参照）がつくられる前には、その所からリチア電気石が採取できたそうである。残念。

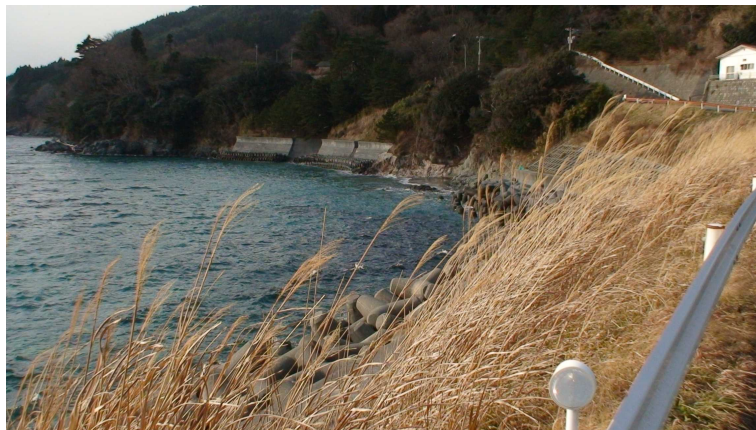
採集鉱物写真

なし、上掲の写真で我慢しよう。

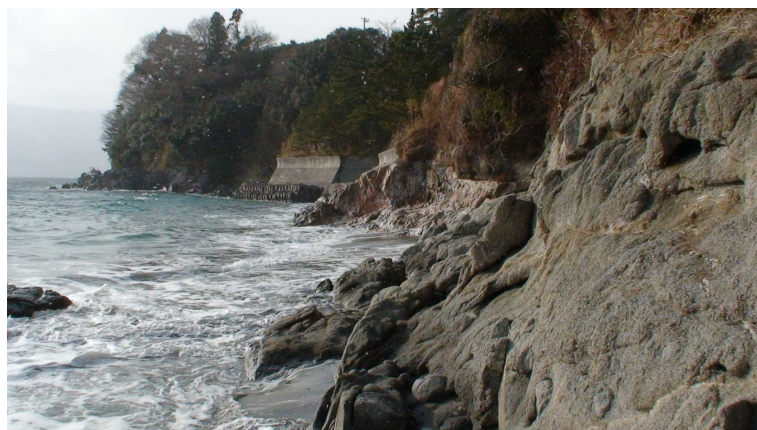
追記

2010年1月25日

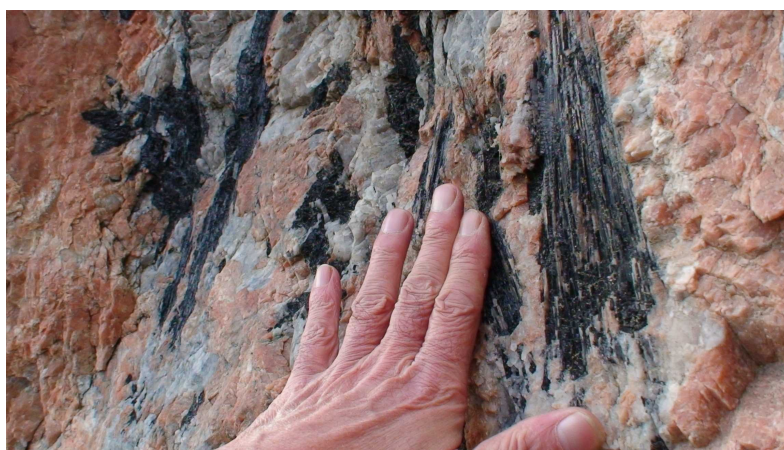
正月に帰省し、三陸沿岸近傍の鉱山跡を探索する計画でしたが、今年は結構雪が多く、結局海岸にある崎浜のペグマタイトと鉄電気石だけの探索となりました。帰省先から崎浜まで車で約30分でした。今回は、ペグマタイト中の大きく、かつ多数の鉄電気石を目の前で観察できました。また、結構な試料も採集できました。採集箇所は小さい砂浜のある海岸の岸壁です。地図に黄緑色の丸で示しています。自作のGPSでは東経141°51'23"、北緯39°06'16"、標高10m。以下、写真で紹介していきます。



現地の道路からの遠望。眼下の海岸にはずっとテトラポットが投棄されています。右上の白い家屋当りに海岸に降りられる階段があります。道路の反対側の山側には民家が並んでいます。民家の石垣を良く見ると、鉄電気石が入っています。良い観察対象になるでしょう。



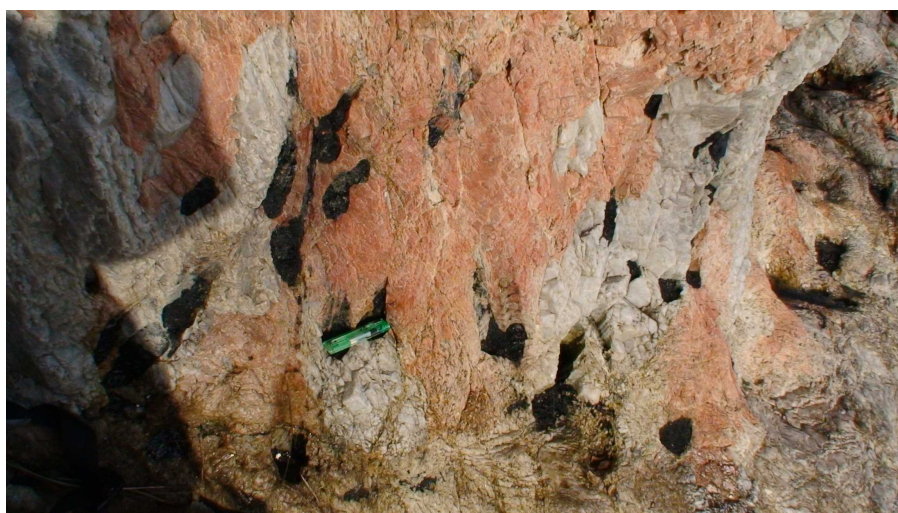
階段を下りての現地の遠望。この辺りは小海水浴場にもなっているようです。手前の先当りから、遠方のコンクリート岸壁までペグマタイトのようです。真ん中当りが少しピンク色になっています。正にペグマタイトです。広範囲にわたって、大小の鉄電気石の様相が観察できます。以下の写真を参照してください。



垂直岩盤に手を当てて、鉄電気石の大きさを比較しています。



同上です。大きい電気石は非常に脆いです。



足元に幾つもの黒い穴が見えます。柱状の鉄電気石の残りです。上部は海水の浸食によって母岩と共に削り取られたのでしょう。真ん中左下に比較のために緑色のものがライターが置いてあります。直径が数c m以上、長さが数十c m以上の鉄電気石のようであったと思われます。



採集物の1つです。pegmatiteと鉄電気石。良い標本と思っています。なを、ここの鉄電気石は、非常に脆いです。波に洗われているためでしょうか。



直径が4 c mの柱状鉄電気石の採集も試みました。が、非常に脆い。一応長さ7 c mの標本となりました。が、触るだけで、外皮がぼろぼろと剥がれ落ちてしまいます。



小さめの標本です。これは少しは丈夫ですが、やはり脆いので、慎重に取り扱う必要がありました。

参考文献（1）によれば、リチア電気石が崎浜海岸のpegmatiteからの名物なそうです。今回の場所には、ありそうもないようですが、時間をかけて探査すれば、見つかるのかも知れません。地図からすれば、赤丸から防波堤の付け根、黄緑丸とpegmatiteの岩脈が続いているようです。そう言えば、道路脇の民家の石垣の岩にも沢山の小さい電気石が入り込んでいました。道路脇なので簡単に見ることができます。海水浴もかねて、日長じっくりと砂を掘り返していれば、リチア電気石に巡り会えるかも知れませんね。幾ら掘っても半日たてば、波が綺麗に戻してくれます。

岩手県の三陸の崎浜は、多くの方には遠いところでしょう。玉山金山跡、鶴住居川など近傍も巡るような探査旅行日程を立てれば宜しいのではないのでしょうか。

東北大学出版会から「新岩手県鉱山誌」高橋維一郎、南部松夫著（価格6000円）が発行されています。岩手県内の116の鉱山が、地形図、坑道図と共に詳細に解説されています。つまり現場がよくわかるということです。この本を参考にしても良いでしょう。

追記

2024年9月

このお盆の帰省を利用して、岩手県大船渡市の崎浜のペグマタイト現地までのGPSログをガーミンで得た。以前のレポートも参考にすれば、より正確に現地にとどり着けると思う。

現地は2011年3月11日の大津波をもろに受けた所です。先の報告書は2009年、2010年のものでした、つまり震災前の。今回の報告書は大津波より13年経過した現地のものです。海岸線には巨大な防波堤が建設され、漁港の様子は様変わりをしていました。ペグマタイト記念碑当たりも地盤のかさ上げがあったのでしょうか、少し背丈が低くなったようですが、現在は新設の「白磯公園」の一部として一応過去の姿は残されていました。

海岸線にあった水平でピンク色したペグマタイト層は、何事も無かったかのように、昔のままでした。



図1 青色曲線が経路ログである。三陸道（この時点でも無料利用時であった）を三陸IC（図中のA点）で降りる。降りると直ぐ右側に道の駅「さんりく」がある。道は下り坂となり、B点で崎浜方面へと右折する。後は、崎浜への案内板に従って進み、越喜来（おつきらい）湾を右下に見ながら東方向へ進んでいく。目的地付近がCである。

その他の豆知識

○遠方からこの地区に来るならば、併せてどこかも訪れるのが良いであろう。本探査記でも何件かは紹介している。より詳しくは、著者が手元に持っている「新岩手県鉱山誌、高橋維一郎、南部松夫著、東北大学出版、2003年発行」と、最近入手した「宮城県鉱山誌、五十公野（いずみの）裕也、金港堂、令和5年（2023年）発行」が参考となろう。図書館や書店で検索してもらえば、閲覧したり、入手することは可能であろう。

○岩手県南東部から宮城県北東部は「気仙」と呼ばれている地域である。この地域には、多くの金鉱山があった。現在実業している鉱山は皆無であるが、幾つかの旧鉱山跡には、現在、資料館などが設置され、一見に値しよう。



図2 図1のC付近の拡大図である。D付近の海岸縁には鉄電気石を持ったペグマタイトの岸壁がある。E付近には公園があり、基岩のペグマタイトが公園の目玉として鎮座している。なを、インターネットで自由公開されている「Google Earth」のストリートビュー・モードを使用するならば、E点、D点付近での様子を現地に立っているように視認できる。これも参考になろう。

現地写真

D付近



写真1 D点の所。前方はE点の方向。海岸へ降りる階段のある所。赤矢印の通り。目先の道脇のガードの切れ目にある。時期によっては草木で覆われているかも。確りとしたコンクリート製の階段ではある。車は道脇の適当な所に駐車できよう。



写真2 階段を下ってきた。写真中央部の水平なピンク色の地層がペグマタイト。赤輪の所。この日は台風の影響で波が荒かったので遠望するだけとした。ここを訪れる時は干潮時で、波が穏やかな時にしよう。海の干満時刻は、インターネットで検索すれば容易であろう。

E点付近



写真3 E点の所である。2011年の大津波後に整地されたようである。ペグマタイト記念石に隣接して「白磯公園」が設立されていた。写真中央から左に横たわっている（赤輪の部分）のは既報の基岩ペグマタイト記念石である。が、前にあった案内看板はなくなっていた。



写真4 蒸気の記念石に接近し鉄電気石を探した。あちこちにある。指先にある黒いものが現物である。